

泉坂下遺跡 第2次確認調査現地説明会

9月21日、泉地内にて市教育委員会が実施していた泉坂下遺跡第2次確認調査の成果を報告するため現地説明会が行われ、70人が参集しました。



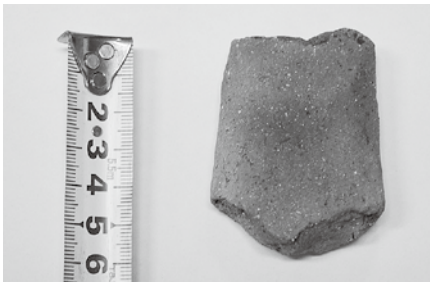
今回の調査は、平成18年度に人面付土器が出土した泉坂下遺跡の再葬墓範囲を確認することなどを目的に、昨年度から実施されている確認調査の第2次にあたります。第1次調査に引き続いて弥生時代中期（約2,200年前）の再葬墓範囲が確認できました。

再葬墓とは、死者をいったん埋葬するなどして骨にした後取り出し、その骨を再び埋葬する墓制で、弥生時代の東日本で行われていたものです。

今回の調査でも弥生時代だけでなく、縄文時代、平安時代、中世などの様々な時代の遺跡が周辺に広がっていることを確認できました。以下、時代ごとに解説します。

縄文時代の終わり頃（晩期）の集落跡が確認されました。祭りに使われた石棒の未成品などが見つかったほか、第1次調査では見つからなかった土偶や勾玉も見つかっています。この時代は再葬墓の作られた時代と比較的近いため、その関連性が注目されます。

なお、住居跡からサメの歯の化石が発見されました。この化石は残っている部分だけで7cm程ある大型のもので、専門家の鑑定によると1800万年前～150万年前頃に生息した全長11～12mのムカシオオホボジロザメ（学名カルカロドン・メガロドン）であり、常陸大宮市付近にはこの時代の化石を含む地層があるそうです。縄文人がどこかで拾ってきた化石を住居に置いていた可能性があります。



▲土偶（胸部）



▲勾玉



▲サメの歯

弥生時代では、再葬墓が新たに4基見つかりました。これにより再葬墓の分布範囲は広がることとなります。また小規模の土器による土器棺墓も見つかっていて、分布域は再葬墓と明確に分けられていました。なお昨年度、詳細不明だった遺構は、溝であることが判明しました。

平安時代の竪穴住居跡が5軒新たに見つかりました。
中世の掘立柱建物の跡や溝の跡、お墓などが見つかっています。



▲溝

二度にわたる確認調査で、泉坂下遺跡について様々なことがわかってきました。今後の調査により、さらなる発見があるかもしれません。今後も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■問い合わせ■ 生涯学習課 生涯学習グループ ☎52-1111（内線344）